

週刊 タバコの正体

「喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなり、^{しんきんこうそく のうそちゅう}心筋梗塞・脳卒中の危険性や^{はいきしゅ}肺気腫を悪化させる危険性を高めます。」こんな警告文が書かれている商品を買う人はいるでしょうか。

じつは、下の写真のとおりタバコのパッケージには必ずこのような警告文が掲載されているのにもかかわらず、2019年度の年間販売本数は1181億本だったと日本たばこ協会が発表しています。金額にすると約2兆8千万円にもなるそうです。

「肺がんになるかもしれないよ」と書かれている商品をこんなに買う人がいるなんて、どうかしていると思わずにられません。しかし、ニコチン依存症の人たちにとっては、将来の病気の警告より、毎日のニコチン切れのストレスを解消する事が優先されるので、タバコは売れ続けるのです。



ニコチン依存症になると「肺がんや心筋梗塞、脳卒中になるかもしれないけど、タバコがなくては生きて行けない」と思ってしまい、タバコを吸うたびに自分の健康を犠牲にしている事実を無視してしまうのでしょうか。タバコの被害を一番うけている喫煙者がタバコから逃げられないなんて、とてもかわいそうで気の毒な状況です。



どうして、こんなものが販売されているのか、不思議ですね。その訳はまたの機会に紹介するとして、とにかく「肺がんになるかも」って書いているタバコに手をだす必要は全くありません。

産業デザイン科
奥田 恭久